

# 2024年3月期 第2四半期決算 IR説明会資料

2023年11月

株式会社 極 洋

(東証プライム市場 証券コード 1301)

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

1.上半期 実績	P2～6
2.中期経営計画と上半期の取り組み	P7～12
3.セグメントの状況	P13～20
4.下半期の施策	P21～23
5.設備投資実績・計画	P24～25
6.通期予想と進捗率	P26～27
7.下半期の事業環境	P28～29
8.通期予想と中期経営計画目標値	P30～31
ご参考資料	P32～40

# 1.上半期 実績

# 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2Q		前年同期比		2024年 3月期 通期予想	通期 予想比 (達成率)
	2023年 3月期	2024年 3月期	増減額	増減比率		
売上高	133,619	126,075	△7,544	△5.6%	300,000	42.0%
営業利益	5,375	3,996	△1,378	△25.7%	8,500	47.0%
経常利益	5,805	4,142	△1,662	△28.6%	8,500	48.7%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	4,208	2,451	△1,756	△41.7%	6,000	40.9%

## ➤ 前年同期比

【前年同期】水産物全般に相場上昇する中で想定を上回る売上・収益を確保

【今期】水産物市況の不透明感が影響し、水産事業の売上・利益が減少

・売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益とも下回った。

## ➤ 通期予想比（2023年5月12日公表）

・上半期で営業利益、経常利益とも約5割達成。

・水産物の需要が高まる年末商戦を残し、いずれも4割以上達成。

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2022年 9月末	2023年 9月末	前年同期比		2022年 9月末	2023年 9月末	前年同期比
資産の部				負債の部			
流動資産	119,871	119,974	102	流動負債	73,264	69,757	△3,507
受取手形 及び売掛金	36,889	36,246	△643	内、支払手形 および買掛金	10,998	11,480	481
				内、短期借入金 (含むCP)	47,617	43,602	△4,015
商品及び製品	57,883	56,840	△1,042	固定負債	32,086	34,961	2,875
仕掛品	3,615	4,946	1,331	内、長期借入金	27,730	30,501	2,771
原材料及び貯蔵品	6,738	7,191	452	負債合計	105,350	104,719	△631
その他	14,744	14,749	5	純資産の部			
固定資産	30,961	35,138	4,176	株主資本	42,162	45,142	2,980
有形固定資産	19,705	21,180	1,475	その他の 包括利益累計額	3,865	5,076	1,211
無形固定資産	361	719	358	非支配株主持分	△544	173	718
投資その他の資産	10,894	13,237	2,342	純資産合計	45,482	50,393	4,910
資産合計	150,833	155,112	4,279	負債及び純資産合計	150,833	155,112	4,279

- ・ 水産物の先高観、相場強含みによる販売単価の上昇で、売上高が増加した前年同期比では、「受取手形及び売掛金」、「商品及び製品」が減少。

# 連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

		2Q累計		前年同期比
		2023年3月期	2024年3月期	
営業活動による キャッシュ・フロー	税金等調整前当期純利益	6,072	3,553	△2,519
	減価償却費	993	1,173	179
	売上債権の増減 (△は増加)	△7,797	△2,967	4,829
	棚卸資産の増減 (△は増加)	△13,150	△5,380	7,769
	仕入債務の増減 (△は減少)	646	2,608	1,962
	その他	△1,625	△207	1,418
	<b>小計</b>	<b>△14,859</b>	<b>△1,220</b>	<b>13,639</b>
投資活動による キャッシュ・フロー	固定資産の取得	△1,677	△3,184	△1,507
	その他	△129	△11	118
	<b>小計</b>	<b>△1,806</b>	<b>△3,196</b>	<b>△1,389</b>
財務活動による キャッシュ・フロー	短期借入金 (含むCP)の増減 (△は減少)	17,989	4,449	△13,540
	長期借入れの増減 (△は減少)	△978	770	1,749
	その他	△1,191	△417	773
	<b>小計</b>	<b>15,820</b>	<b>4,802</b>	<b>△11,017</b>

・ 前年同期、水産物の売上増と相場上昇に伴い増加した「売上債権」、「棚卸資産」は減少。

## 2Q累計の推移

	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	前年同期比
自己資本 (百万円)	31,696	35,035	42,070	46,027	50,219	4,192
有利子負債 (百万円)	64,578	55,693	56,798	75,748	74,435	△1,312
総資産 (百万円)	119,707	115,610	127,429	150,833	155,112	4,279
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	4,197	5,793	6,790	5,880	7,681	1,800
自己資本比率	26.5%	30.3%	33.0%	30.5%	32.4%	+1.9ポイント
D/Eレシオ	2.1倍	1.7倍	1.5倍	1.8倍	1.6倍	△0.2ポイント
ROE	2.2%	4.7%	5.9%	9.5%	5.0%	△4.5ポイント
ROA	1.0%	1.3%	2.8%	4.1%	2.7%	△1.4ポイント

ROE：「親会社株主に帰属する四半期純利益÷自己資本\*」、ROA：「経常利益÷総資産\*」 \*当四半期末と前期末の平均値

- ・有利子負債（短期借入金）の減少により、自己資本比率は上昇。
- ・四半期純利益の減少により、ROEは減少。
- ・経常利益の減少および固定資産の増加により、ROAは減少。

## 2. 中期経営計画と 上半期の取り組み



戦略

海外事業の拡大

## 施策

- 新たな海外拠点の設置による販売体制の強化
- 海外販売用製品の開発による、自社製品の販売拡大

## 定量目標

中期経営計画 最終年度目標

**海外売上高 2024年3月期 300億円**

中期経営計画 最終年度目標

(ご参考)

2024年3月期 通期進行中	(2024年3月期 上半期実績 124 億円)
2023年3月期 通期実績 254億円	(2023年3月期 上半期実績 107 億円)
2022年3月期 通期実績 183億円	

## 戦略 海外事業の拡大

海外事業の方針転換

従 来

日本産水産物の輸出

“海外でつくり、海外で売る”

事業を取り巻く環境

伸長する  
世界的な水産物需要

世界的なヘルシー志向  
の増大

新興国の経済成長  
による所得増加

国内市場の縮小

### ▶北米にカニかま製造会社 Ocean's Kitchen 設立【23年4月】

目的：米国向けカニ風味かまぼこの製造・販売  
工場の改修中、24年度中に稼働予定

### ▶ベトナムに子会社「Kyokuyo Vina Foods Co., Ltd.」設立【22年7月】

目的：コロナ禍で課題が顕在化した中国加工のリスク分散と  
ベトナムおよび東南アジア向けの食品生産、販売  
(水産物の一次加工、煮魚・焼魚の生産を予定)

23年中に着工、24年度中に稼働予定

※参考資料P.38に「海外拠点一覧」を記載しております。

## 戦略 事業基盤の強化

### ➤ 事業本部の設置【4月】

セグメント変更と同時に、機動的な事業運営を図り、「高収益構造への転換」を加速させるため、水産・生鮮・食品の3事業に事業本部を設置。

事業本部による一元管理により、全体効率を追求した、収益性の高い体制を目指すことが目的。

事業を取り巻く環境

社会の目まぐるしい変化

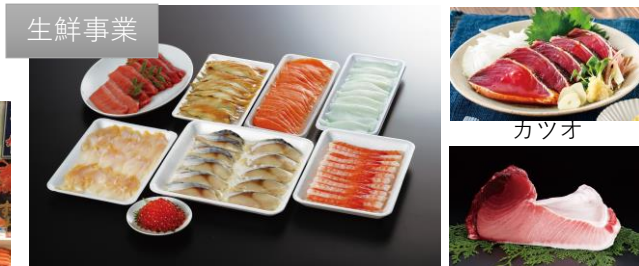


水産事業

水産加工品



水産原料



生鮮事業

寿司種などの生食商材



カツオ



マグロ



食品事業

水産フライ



焼き魚



缶詰



市販用冷凍食品

## 戦略 養殖事業の収益安定化

### ➤ 養殖事業を統括する「資源開発部」を新設【4月】

国内外における養殖事業の取組みを推進するほか、既存の養殖事業を効率化。

世界的な水産物需要増に伴う調達競争の激化

飼料費など養殖魚の生産コスト上昇



完全養殖クロマグロ  
「本鮪の極 つなぐ  
<TUNAGU>」



クロシオ水産  
養殖マダイ

## 戦略 商品開発、ブランドの強化

事業を取り巻く環境

### ▶2023年秋の新商品投入【7月】

市販用商品10品、業務用商品19品の合計29品を発表。

「魚のおいしさと便利を提案!」をテーマに、アフターコロナにおいて、回復傾向にある外食産業で課題となっている人手不足に対応した業務用商品や、原料高のサバ缶に代わる商品としてイワシ缶の新商品などを開発。



極海老カツ60



だんどり上手赤魚塩麴焼き  
(骨なし)



だんどり上手やわらか  
若鶏のみぞれ煮



いわし水煮 レモン風味



いわしトマト煮

インバウンド消費の復活で外食産業の人手不足が再燃

サバ不漁によるサバ缶の原料高

市販商品拡大にはブランド力が不可欠

### ▶X (旧Twitter) にてプレゼントキャンペーン実施【2月~】

当社キャラクター「だんどり~にゃ」アカウントにて、抽選で当社グループ製品が当たるキャンペーンを毎日実施。

### ▶ツナ缶にスポットをあてた商品CMの放映【9月】

東北・九州エリアで2023年9月17~30日まで、パッケージをリニューアルしたツナ缶のCMを放映し、「キョクヨー」ブランドのPRを強化。



CMのワンシーン

## 戦略

### 人材基盤の強化、ESG経営

事業を取り巻く環境

#### ➤ 執行役員制度の導入【4月】

経営の意思決定及び監督機能と業務執行機能を分離することにより、経営の機動性を高め、コーポレートガバナンスの強化と次世代の経営人材育成を図る。

#### ➤ 新人事制度の導入【4月】

平均年収は約2割、初任給は約3割の引き上げ。定年を60歳から65歳に延長し、若手からシニア社員まで意欲と能力に応じた人事制度の実現。

#### ➤ 「くるみん」認定取得【7月】

子育てサポート企業として、厚生労働大臣から認定。



くるみん認定マーク

多様化する働き方や  
ライフスタイルの変化

労働人口の減少  
や法改正などの変化

## 戦略

### ESG経営

#### ➤ TCFD 提言に沿った情報開示【8月】

「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）※」の提言に基づいて、気候変動が事業活動に与えるリスクと機会を分析、対応策を検討した結果を開示。

※気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）

G20から要請を受け、2015年に金融安定理事会（FSB）が設立。気候変動によるリスクおよび機会が経営に与える財務的影響を評価し、「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」について開示することを推奨している。

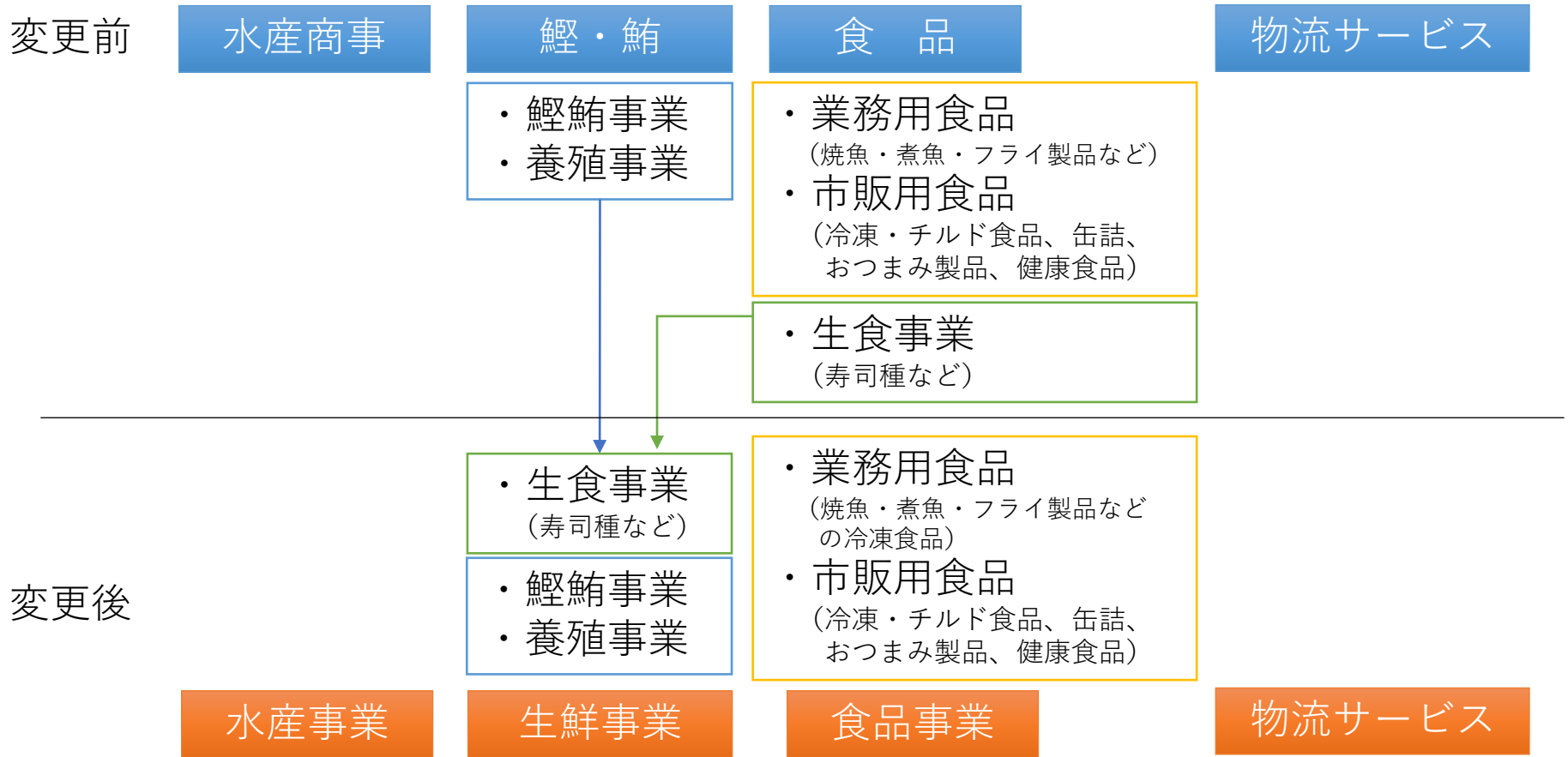
気候変動が事業活動に  
与えるリスクの増大

## 3.セグメントの状況

# セグメントの状況

## 今期からコア事業を明確にしたセグメント構成に変更

寿司種や刺身などの生食商材と、生食で提供されることが多い、鰹鮪商材を生鮮事業に集約。販売流通・販売の温度帯や販売先が近い商材を同一セグメント内で取り扱うことで、効率的な事業運営を行い、海外でも需要が高まる生食商材を、より一層成長させていきます。



# セグメントの状況

## セグメント別売上高・利益

(単位：百万円)

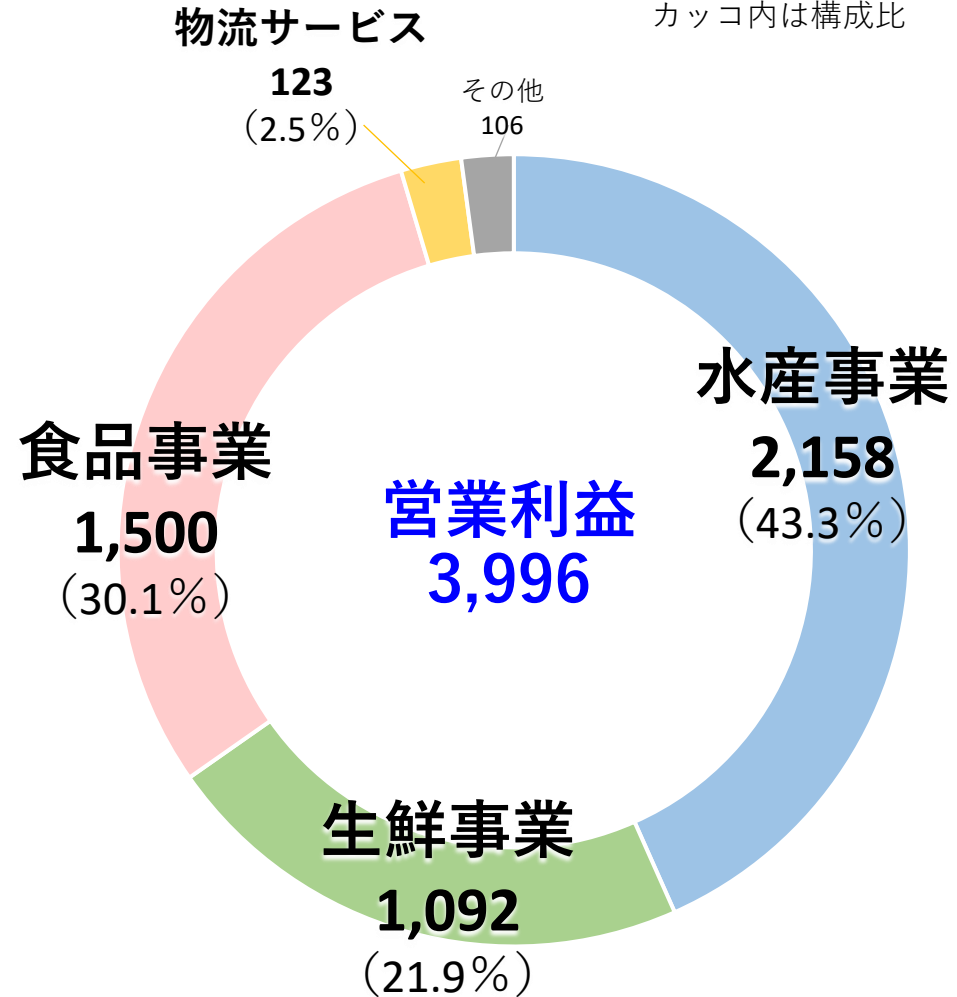
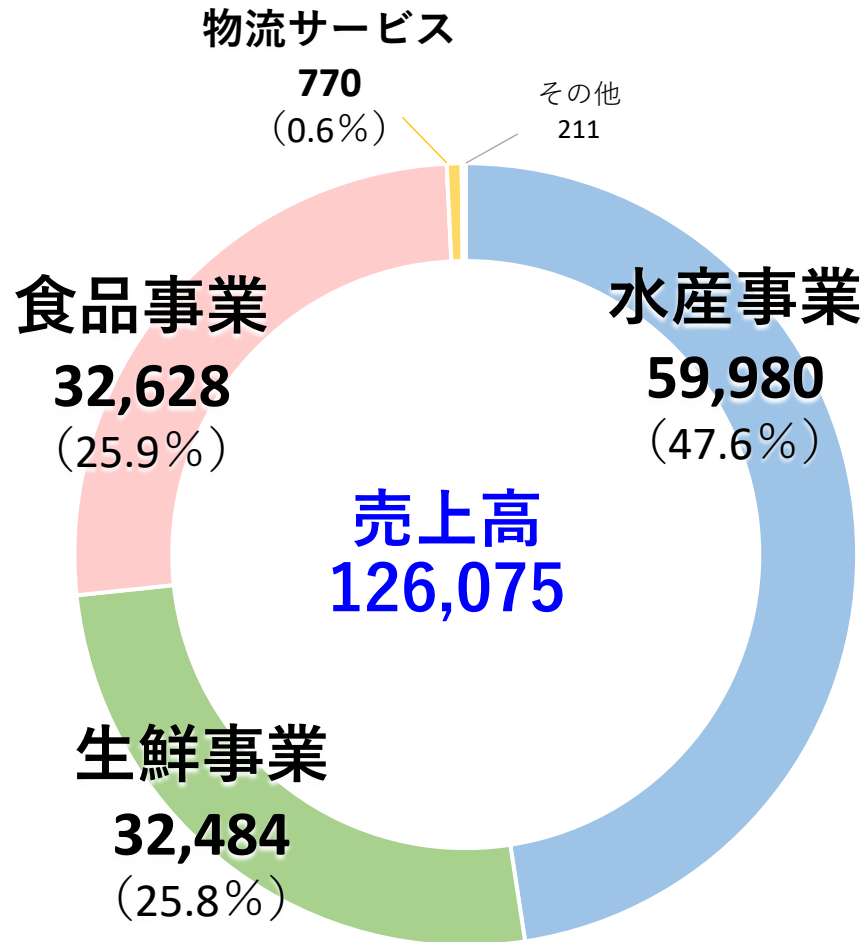
	売上高			セグメント利益		
	2023年3月期 2Q	2024年3月期 2Q	前年同期比	2023年3月期 2Q	2024年3月期 2Q	前年同期比
水産	68,109	59,980	△8,128	3,216	2,158	△1,057
生鮮	35,852	32,484	△3,368	2,161	1,092	△1,069
食品	28,801	32,628	3,827	513	1,500	987
物流 サービス	642	770	127	89	123	34
その他	213	211	△2	△605	△878	△273
合 計	133,619	126,075	△7,544	5,375	3,996	△1,378

※管理区分を見直したことに伴い、「水産事業」の前年同期実績についても、セグメント変更後に組み替えて記載しております。



# セグメントの状況

単位：百万円  
カッコ内は構成比



※調整額 △985百万円を除く。  
調整額を差し引く前のセグメント利益合計は4,981百万円。

## ➤ 水産事業

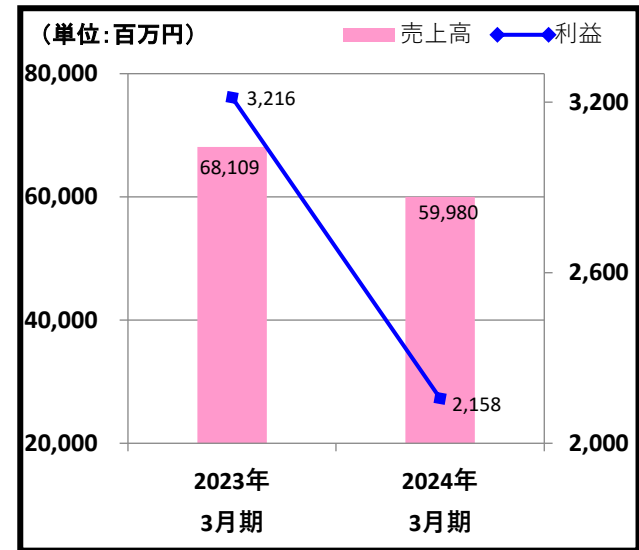
《減収減益》

(国内販売)

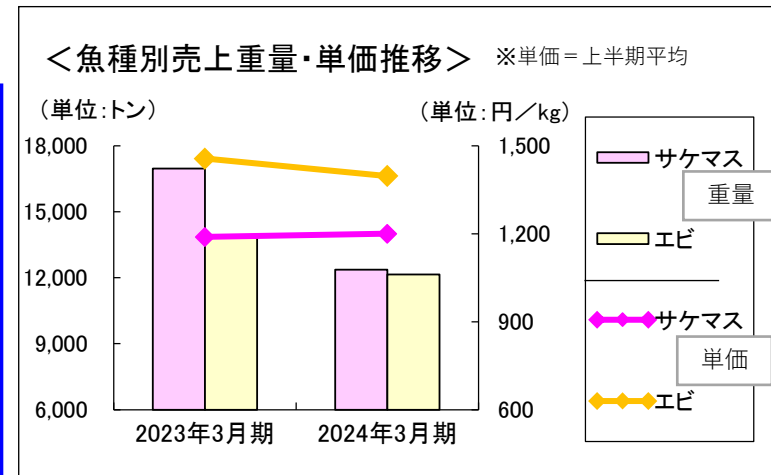
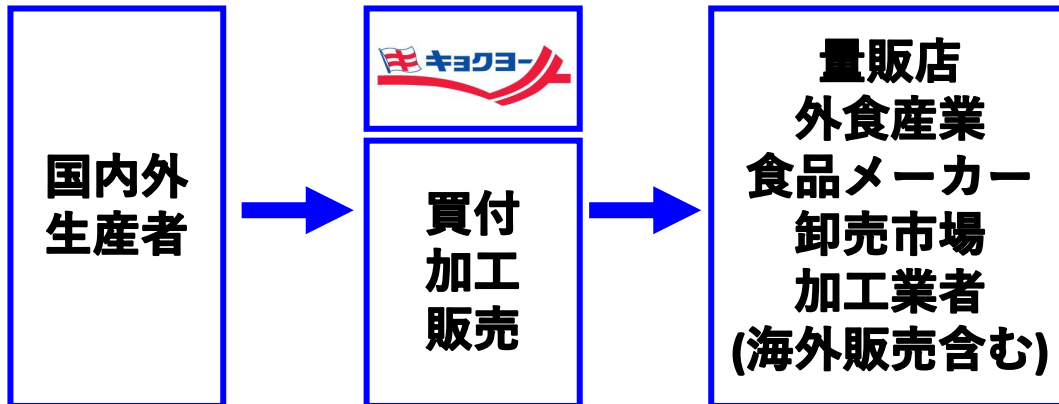
- 相場不透明感から流通、加工業者は手堅い買付にとどまり、主要魚種のサケ、エビなどの販売が減少

(海外事業)

- 輸出は中国向け主力商材であるホタテの取扱いが減少
- 円安を背景に青物やマグロなどの販売が伸長
- 海外現地販売は、インフレによる消費減退で、北米での販売減少



※参考資料P.33「魚種別売上重量・単価推移」を記載しております。



## ➤ 生鮮事業

### 《減収減益》

- 寿司種などの生食商材は、価格改定の浸透により収益は改善
- マグロは、昨年来の原料の高値が消費減退を招き、冷凍品全般に販売が大幅に減少

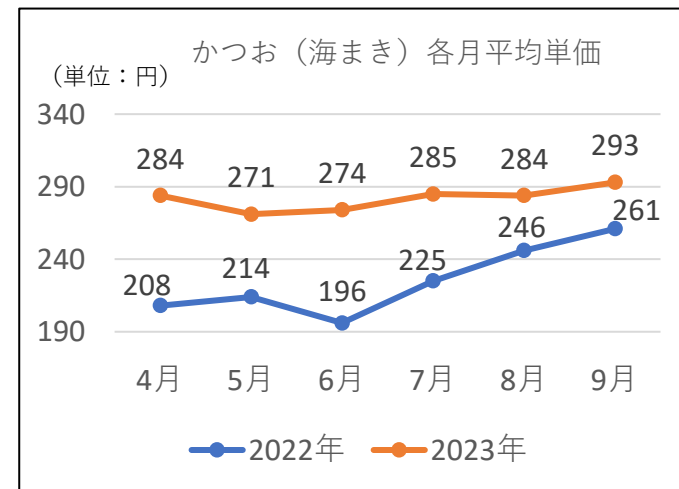
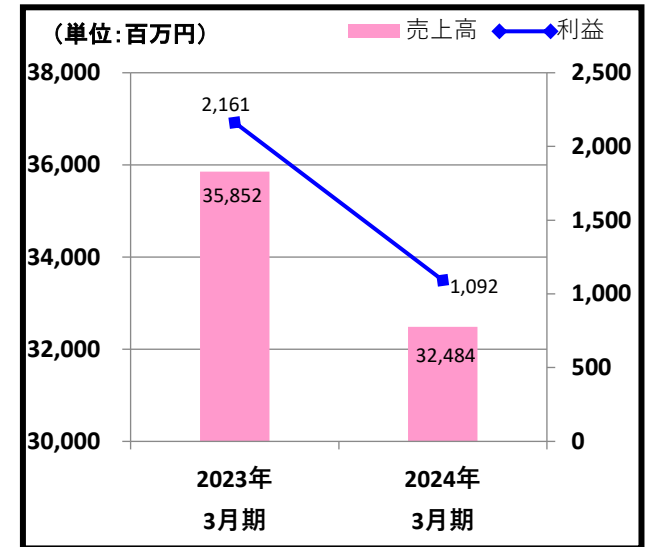
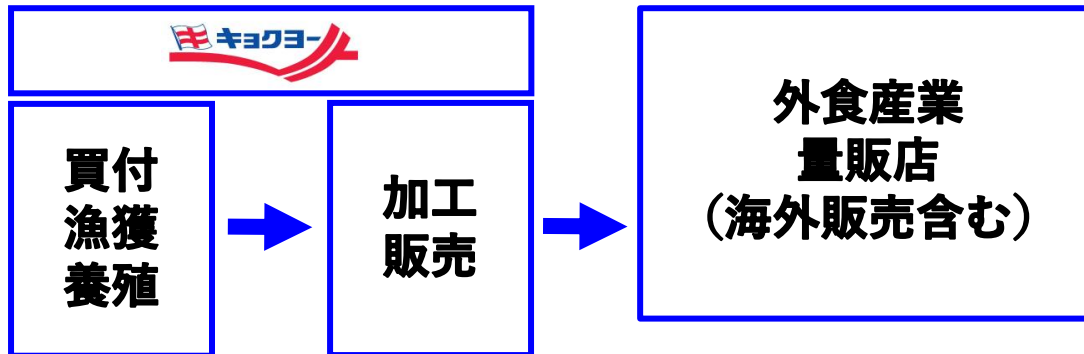
### (養殖事業)

- 国産養殖クロマグロは、飼料費などの生産コストの上昇が収益を圧迫

### (海外まき網事業)

- 水揚げ量の減少と船の修繕費増加により収益が悪化

※参考資料P.34～35に「クロマグロ養殖事業 売上重量・金額」および「海外まき網事業 水揚げ重量・魚価」を記載しております。



出典：焼津魚市場取扱高対比表 (税抜)  
(焼津漁業協同組合)

## ▶ 食品事業

《増収増益》

(業務用冷凍食品)

- 生産コスト上昇を反映した値上げにより、販売数量は減少
- 一方で、価格改定効果があり、切身や煮魚、焼魚、水産フライなどの売上が伸長
- 自社工場製品の拡販もあり収益は大きく改善

(市販用冷凍食品)

- 煮魚や焼魚、弁当用商材の販売が拡大

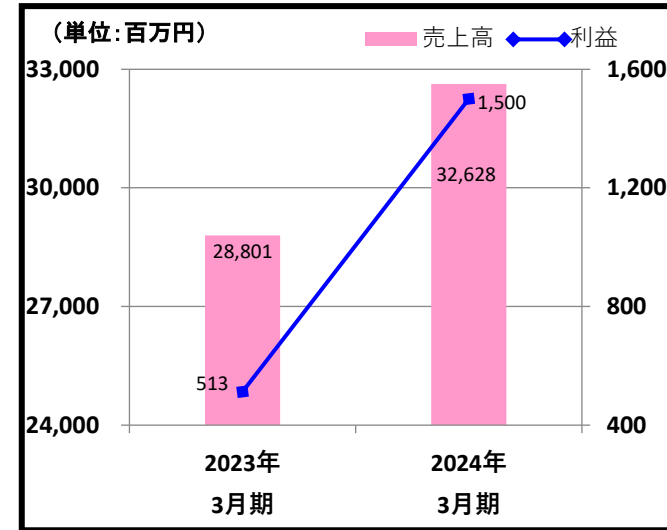
(缶詰)

- 注力したイワシ缶の売上は伸長したものの、全体として販売は減少

(おつまみ・珍味)

- 価格改定の効果があり、売上、収益とも増加

※参考資料P.36「食品事業の売上高内訳」を記載しております。



主な商品群



水産フライ類



だんどり上手



煮魚



カニ風味かまぼこ



市販用冷凍食品



缶詰



国内外  
自社工場  
協力工場

仕入  
買付  
販売

外食産業  
問屋  
量販店  
コンビニ  
ドラッグストア  
産業給食  
医療・介護施設

## 物流サービス

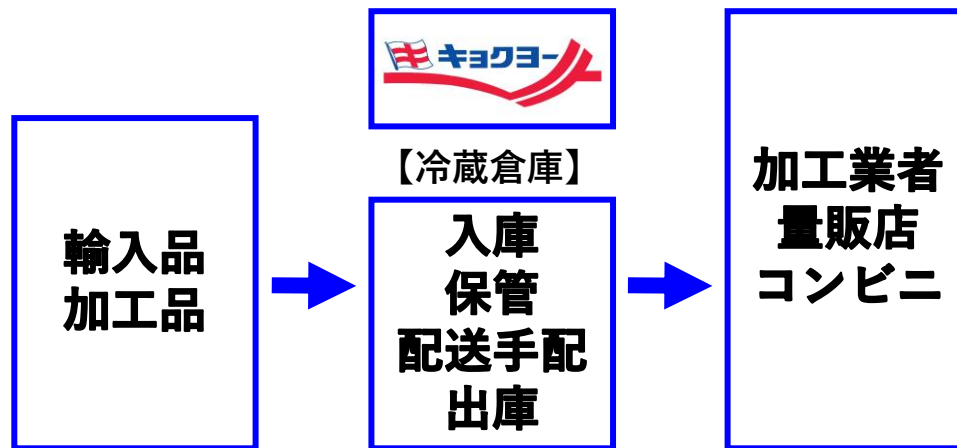
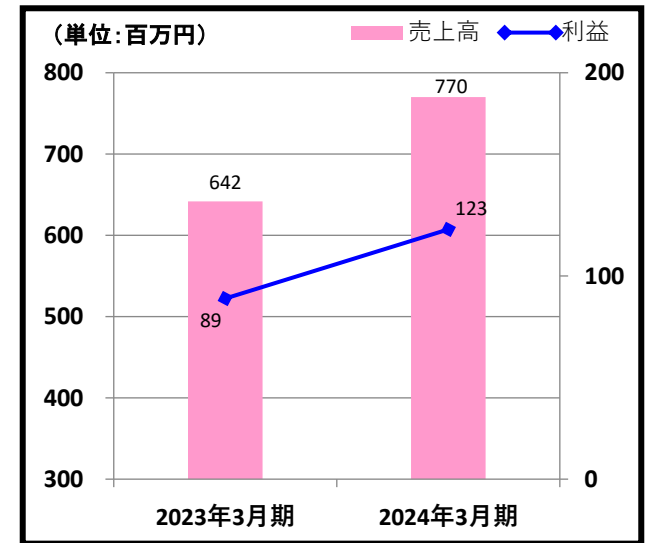
《増収増益》

(冷蔵倉庫事業)

- 庫腹率の高水準が継続したことで保管料収入が増加

(利用運送事業)

- 外部取引先との取引拡大により売上が拡大



冷蔵倉庫



冷蔵倉庫からの  
出庫作業

## 4. 下半期の施策

# 中期経営計画と下半期の施策

## ➤ 水産事業

### < 施策 >

昨年比で値ごろ感のある商材の販売量拡大

海外拠点の整備、海外M&Aの検討



### < 中計戦略 >

水産事業の収益安定化

海外事業の拡大

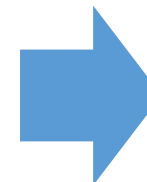
事業基盤の強化

## ➤ 生鮮事業

強みのある商材への注力

自社工場製品を中心とした販売による収益性向上

徹底した在庫管理と相場変動への迅速な対応



食品（生鮮）事業の拡大

養殖事業の収益安定化

## ➤ 食品事業

### < 施策 >

自社工場の生産効率向上

市場トレンドに即した新商品の投入

売り場の活性化につながる商品、企画の提案（缶詰）



### < 中計戦略 >

食品事業の拡大

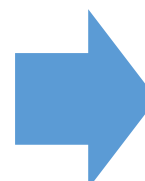
商品開発・ブランドの強化

食の楽しみへのこだわり

## ➤ 物流サービス

物流業界の2024年問題対応としての業務効率化

回転率を意識した貨物の確保による売上拡大



DXの推進



# 5.設備投資実績・計画

# 設備投資実績・計画

	概要	2024年3月期 9月末実績	2024年3月期 計画
極 洋	生産工場関連	2億円	5億円
	研究所関連	0億円	1億円
	養殖事業海上	1億円	1億円
	IT関連その他	2億円	7億円
	計	4億円	14億円
関係 会社	生産工場関連	29億円	49億円
	まき網事業関連	0億円	1億円
	養殖事業海上	0億円	2億円
	IT関連その他	4億円	3億円
	計	30億円	55億円
	合計	34億円	69億円

## 主な投資案件

DX推進  
グループ内横断的システム導入

- ・ 北米のカニかま製造会社  
「Ocean's Kitchen」 20億円
- ・ ベトナムの食品製造会社  
「Kyokuyo Vina Foods」 7億円

※工場用地・建物

## 6.通期予想と進捗率

# セグメント別業績予想と進捗率

(単位：百万円)

	2024年3月期 2Q実績		2024年3月期 通期業績予想		売上高 進捗率	セグメント利益 進捗率
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益		
水産事業	59,980	2,158	153,000	5,500	39.2%	39.2%
生鮮事業	32,484	1,092	73,000	2,500	44.5%	43.7%
食品事業	32,628	1,500	73,000	1,700	44.7%	88.3%
物流 サービス	770	123	1,000	200	77.0%	61.6%
その他	211	△878	0	△1,400	—	—
合 計	126,075	3,996	300,000	8,500	42.0%	47.0%

# 7. 下半期の事業環境

## < 注視すべき点 >

- ・ 欧米の金利動向、為替動向
- ・ 中国経済の成長鈍化
- ・ 中国の日本産水産物輸入停止による影響（相場への影響等）

## < 事業環境認識 >

- ・ 原材料、エネルギーコストの高止まり
- ・ 食品の値上げによる節約志向の高まり
- ・ インバウンド消費増加による外食、観光産業の需要アップ

# 8.通期予想と中期経営計画 目標値

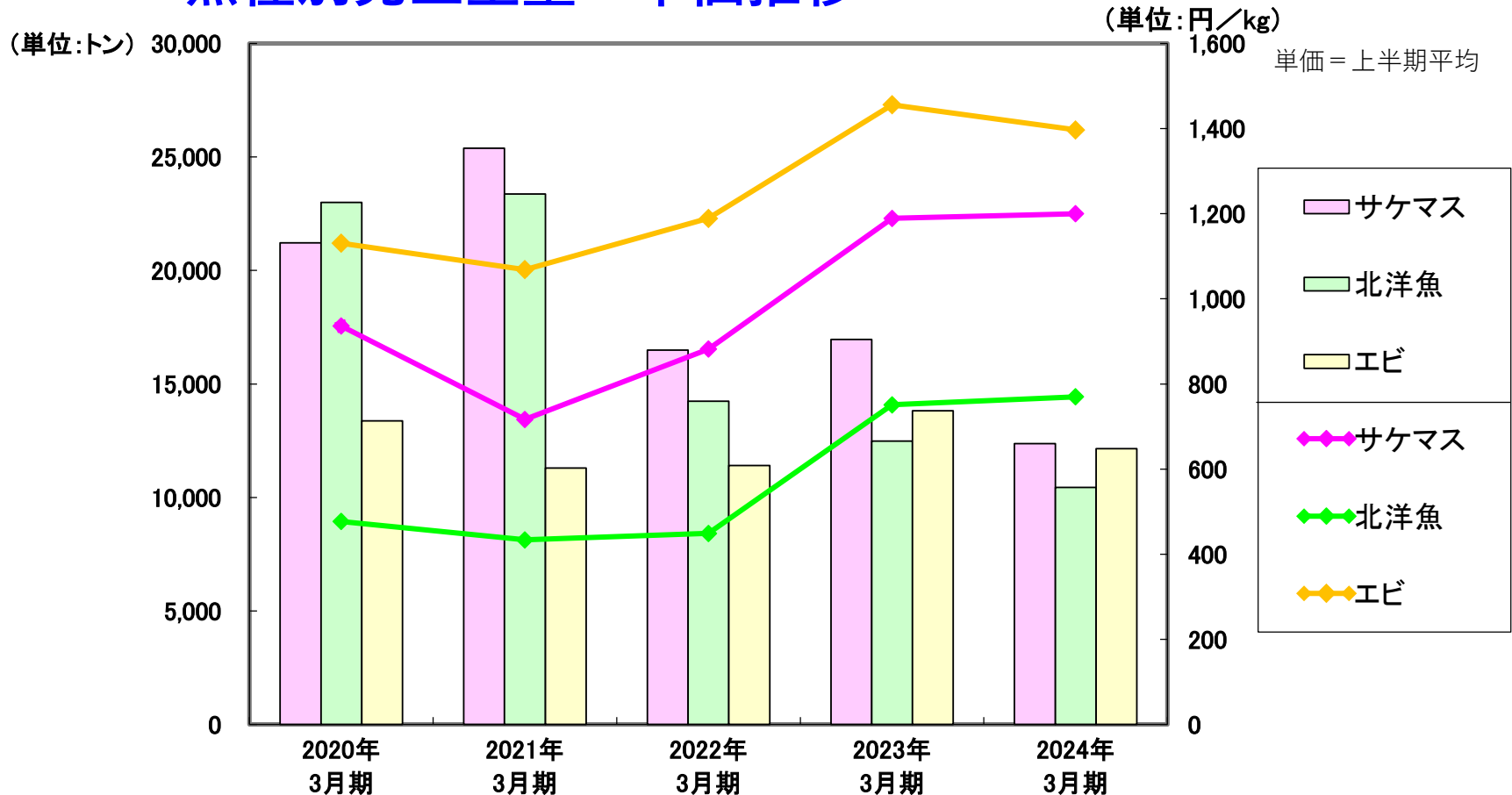
# 連結業績予想と中計目標値

	2024年3月期 2Q実績	2024年3月期 連結業績予想 (中計最終年度)	中期経営計画 目標値 (発表当初から修正無し)
売上高	1, 2 6 0 億円	3, 0 0 0 億円	3, 0 0 0 億円
営業利益	3 9 億円	8 5 億円	7 0 億円
経常利益	4 1 億円	8 5 億円	6 5 億円
営業利益率	3. 2%	2. 8%	2. 0%超
経常利益率	3. 3%	2. 8%	2. 0%超



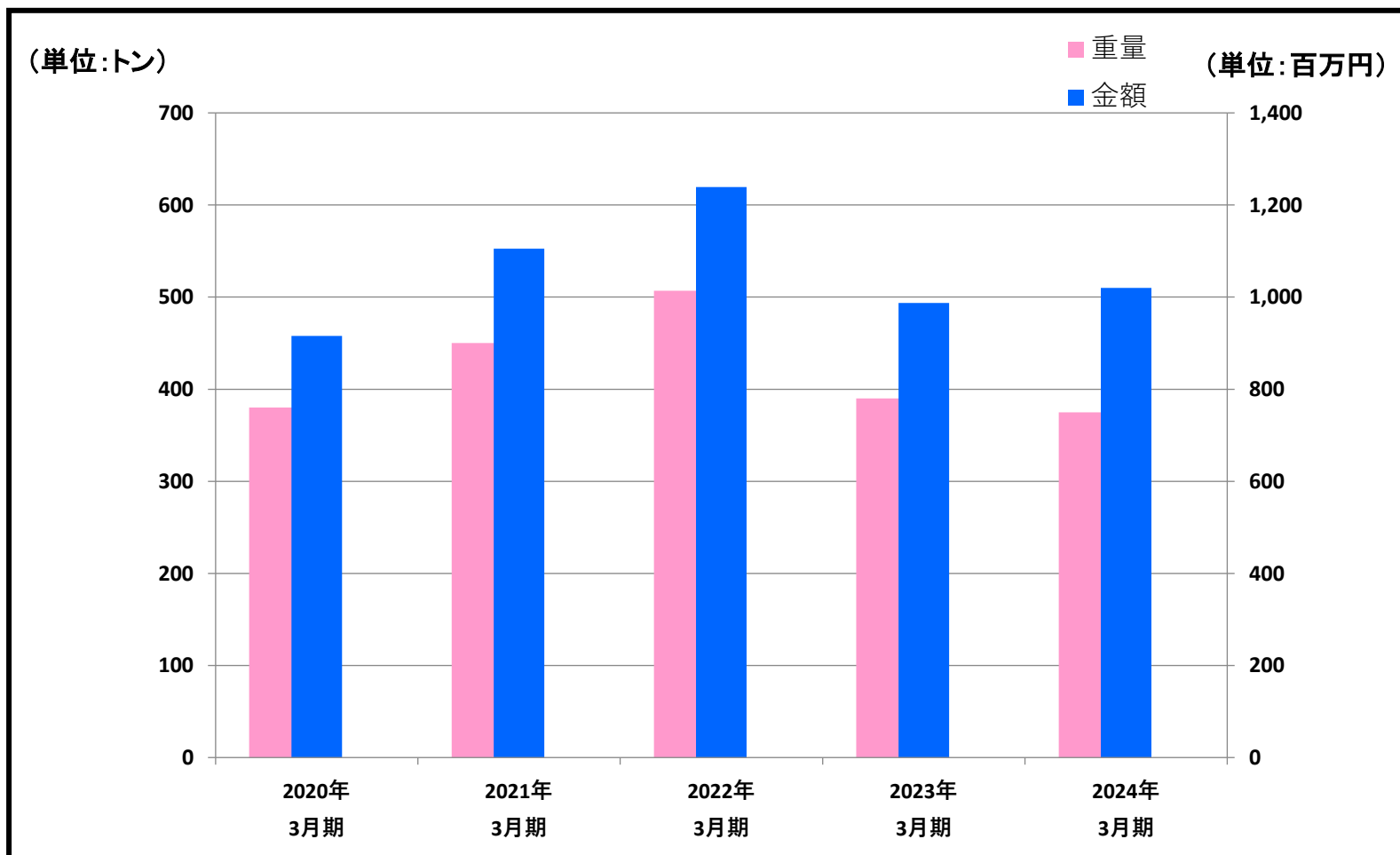
# ご参考資料

## 水産事業セグメント（上半期）＜単体＞ 魚種別売上重量・単価推移

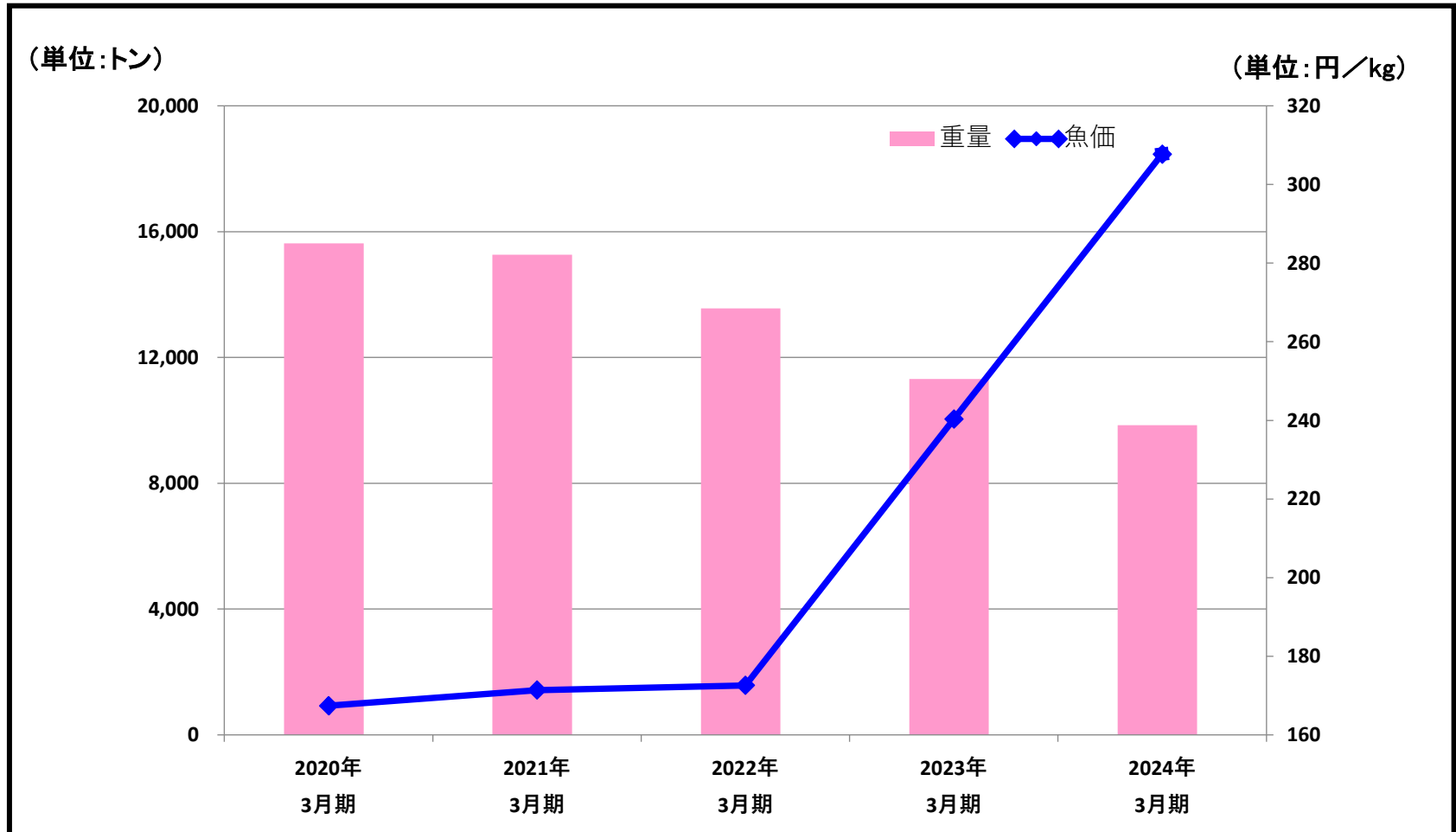


※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しています。これにより、有償支給取引については、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。2022年3月期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

## 生鮮事業セグメント（上半期） クロマグロ養殖事業 売上重量・金額

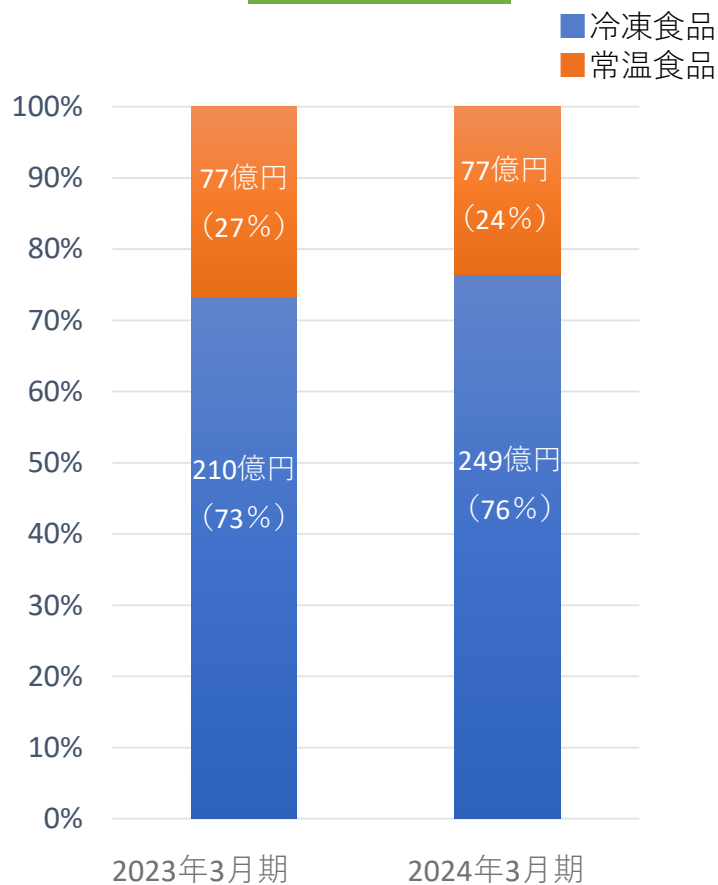


## 生鮮事業セグメント 海外まき網事業 水揚げ重量・魚価

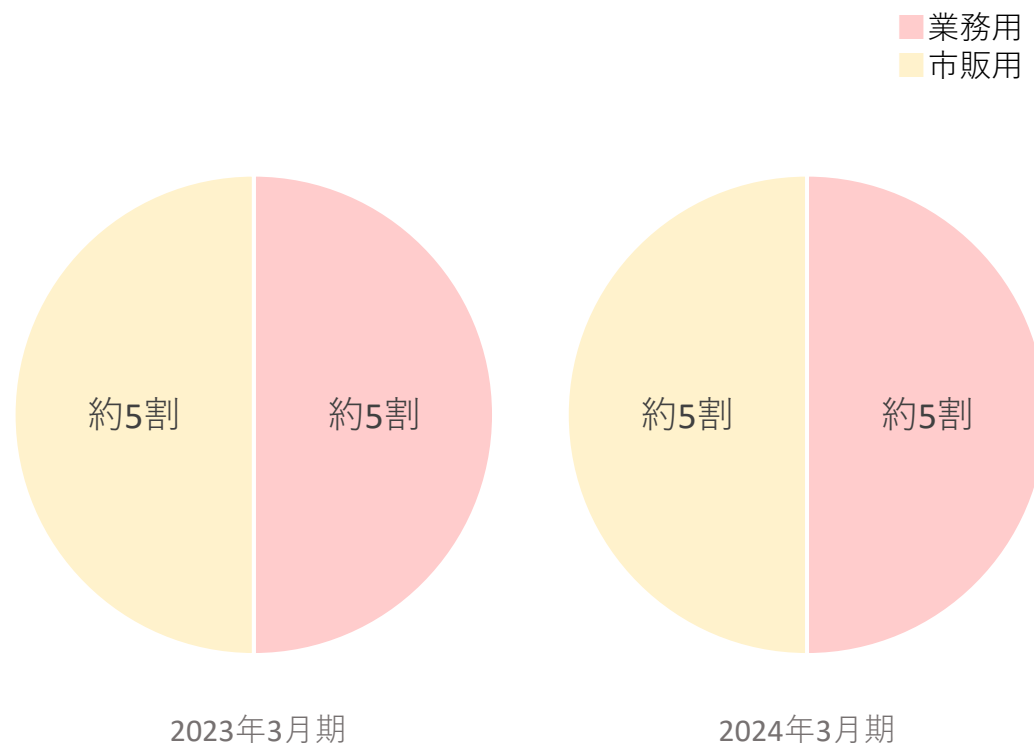


## 食品事業（上半期）売上高 2024年3月期（32,628百万円） 内訳 2023年3月期（28,801百万円）

温度帯別



業態別



※2023年3月期（上半期）実績については、セグメント変更後に組み替えて記載しています。

## ESGトピックス

### ➤ 日本カヌー連盟への協賛

「自然との共生」および「水資源の大切さ」を社会に訴える環境保全活動の一環として日本代表選手や日本カヌー連盟の活動を応援、サポート。また、競技場へ来場された方々にご参加いただき競技コース付近の清掃活動「クリーンリバー活動」を実施。2023年度参加者は247名。



### ➤ SeaBOS 日本3社合同海岸クリーンアップ2023を開催【7月】

SeaBOSに参画している日本3社（株）極洋、マルハニチロ（株）、ニッスイ（株）合同で、千葉県の海岸沿いのごみを収拾。各社の社員らがボランティアとして参加。

SeaBOSで取り組むタスクフォースのうち、日本企業の3社が中心的な役割を担っている「海洋プラスチック汚染への対応」の一環として行ったもので、初めての取り組み。

### ➤ 海外まき網船乗組員が人命救助【7月】

極洋水産（株）の海外まき網船「第七わかば丸」が、パプアニューギニア沖で操業中に遭難していたパプアニューギニア人14名を救出。

### ➤ TCFD 提言に沿った情報開示【8月】

「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」の提言に基づいて、気候変動が事業活動に与えるリスクと機会を分析、対応策を検討した結果を開示。



SeaBOS日本3社合同海岸クリーンアップ2023参加者

### ➤ キョクヨーグループ 統合報告書2023 発行【9月】

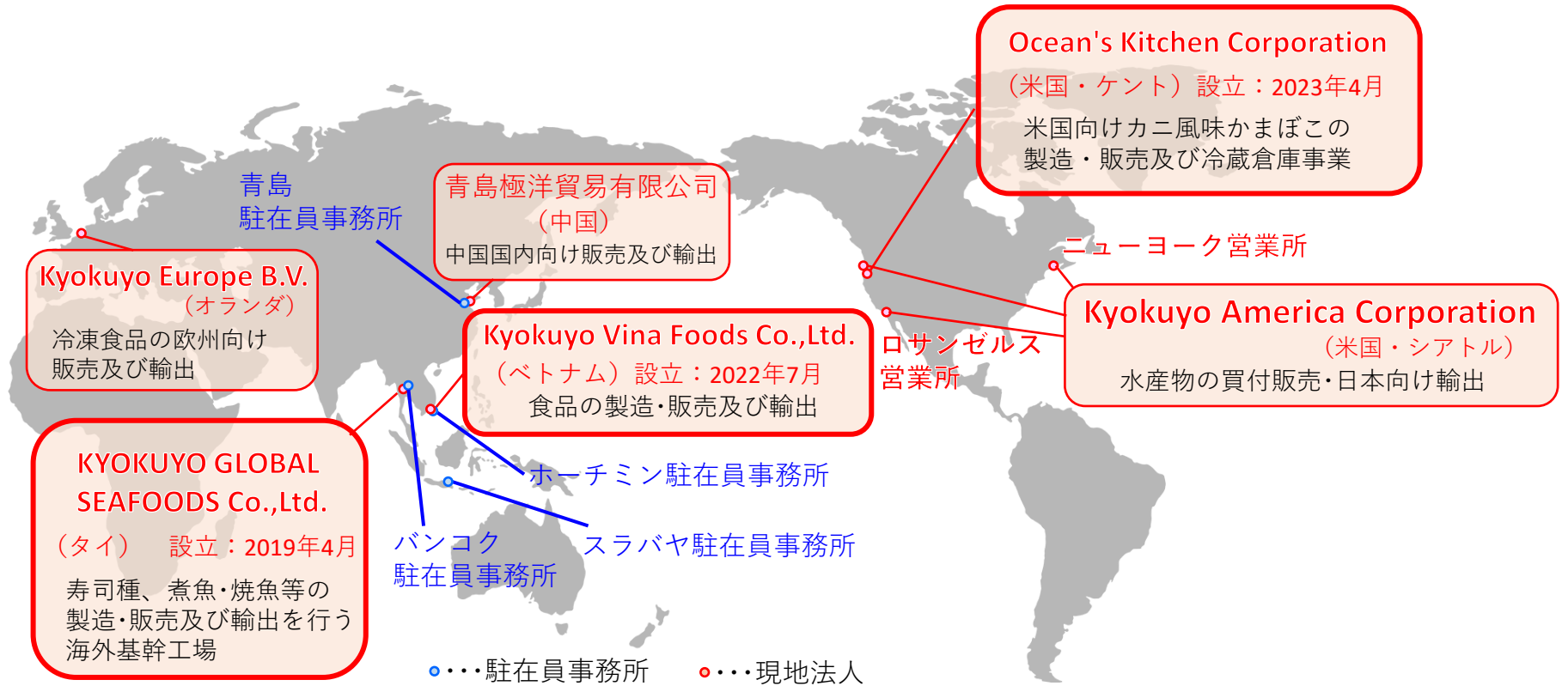
中期経営計画の進捗状況および予測・長期展望やESG項目を記載。初めて「社外取締役のメッセージ」を掲載し、社外取締役の多角的な視点と「新たな成長」に向けて変わりつつある当社の姿を表現。



### ➤ SeaBOSキーストーン・ダイアログに出席【10月】

世界の水産大手企業と科学者が持続可能な水産資源の活用・健全な海洋および地球環境の実現に向け、課題抽出・目標設定を行うSeaBOS会議に井上社長が出席。

## 海外拠点一覧



## ➤ 2Q 連結業績推移

単位：百万円

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
売上高	126,884	116,861	120,880	133,619	126,075
売上原価	115,283	105,036	106,951	116,774	109,937
売上総利益	11,600	11,825	13,929	16,844	16,138
販売費および 一般管理費	10,865	10,445	10,706	11,469	12,141
営業利益	735	1,379	3,222	5,375	3,996
経常利益	1,128	1,505	3,428	5,805	4,142
特別利益	0	1,465	39	302	74
特別損失	38	730	48	35	663
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	710	1,577	2,438	4,208	2,451



# 見通しに関する注意事項

本資料は、2023年9月末までの業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としております。

本資料に含まれる業績予想及び将来の予測は、現時点で入手される情報に基づくものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

したがって、実際の業績は、様々な要因によりこれらの予想と異なることがありますのでご了承ください。

当資料に対する問い合わせ窓口

株式会社 極洋 経営管理部IR室 電話03-5545-0703

本資料は株式会社極洋が作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属します。複写及び無断転載はご遠慮ください。